

## 再評価実施事業調書

番号	2	事業名	社会資本整備総合交付金 (連続立体交差事業)		路線又は箇所名等	東武野田線(野田市)				
事業所管課			道路整備課		事業主体		千葉県			
事業化 年度	平成19年度	用地着手 年度	平成20年度	工事着手年度 工事認可年度	平成20年度 平成29年度	再評価の理由		再々評価		
費用便益比 B/C	1.2	総費用	338億円	総便益	393億円	基準年	平成26 年度	供用開始 年度	平成29 年度	

## 【事業概要】

## (目的)

本路線は、野田市の中心市街地を走行している東武野田線における、清水公園駅から梅郷駅間の約2.9kmを高架化し、既存の踏切11箇所を除却することにより、交通渋滞や踏切事故の事故の解消を図るとともに、鉄道により分断されていた市街地の一体化を図るものである。

## (規模)

- ・総事業費 : 324億円(外、鉄道側負担: 29億円)
- ・事業延長 : L=2,905m
- ・事業認可期間 : 平成19年度～平成29年度
- ・高架化する駅 : 愛宕駅、野田市駅
- ・高架化の方法 : 仮線方式

## 【事業の進捗状況】

平成26年度末見込みの進捗率 事業費ベース 12%

## 【社会経済情勢等】

## 1. 踏切遮断時間等について

現在、11箇所の踏切における踏切遮断時間は、平均5.1時間/日・箇所であり、踏切を除却することにより、この遮断時間が解消される。

このうち、主要地方道つくば野田線及び主要地方道野田牛久線に係る踏切交通遮断量(台時/日)は、各々、7万5千台時/日及び5万7千台時/日であり、いずれもボトルネック踏切(5万台時/日以上)となっている。

## 2. 踏切事故件数について

平成21年度から平成25年度の踏切事故件数は、1件(死亡事故)であり、踏切を除却することにより、踏切での事故は解消される。

## 3. 関連する他事業について

周辺市街地の都市再生、活性化を図るため、本事業により高架化される駅の整備に合わせて、愛宕駅周辺では土地区画整理や駅前広場、道路の整備が実施されており、また、野田市駅周辺でも土地区画整理の整備が実施されている。

## 【対応方針(案)】 継続

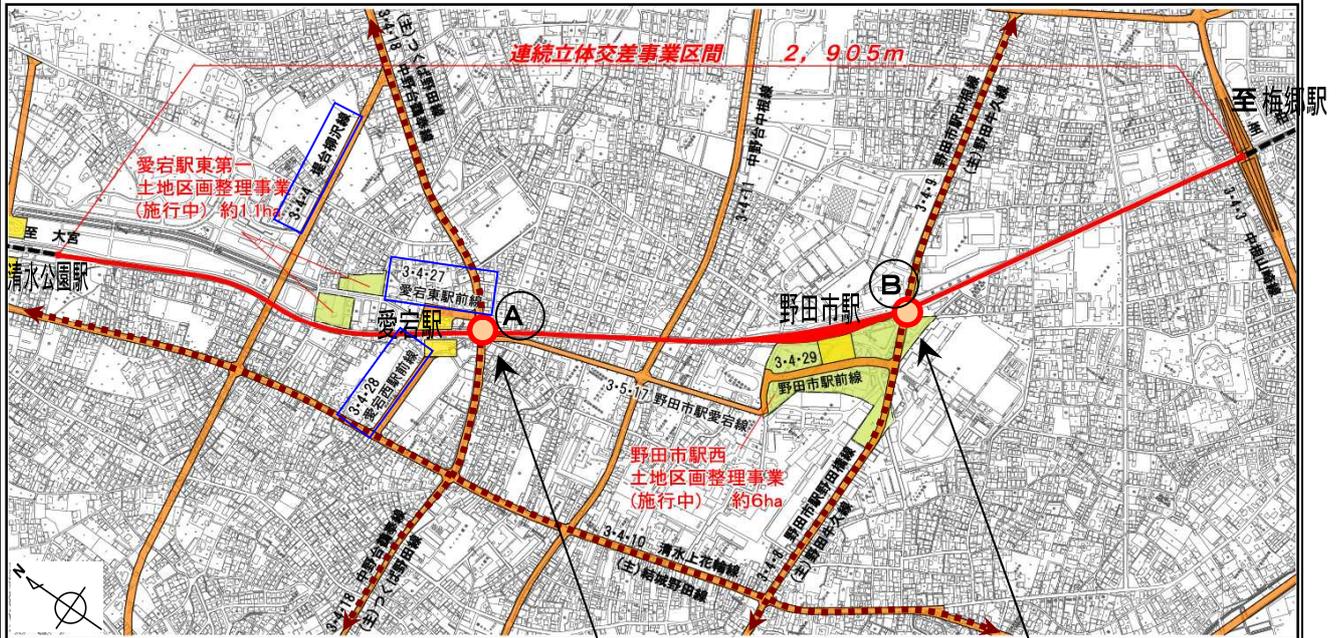
費用便益比(B/C)が1.2であり、費用対効果が見込まれる。

整備効果として、踏切除却による交通渋滞の解消及び走行性の向上、踏切事故解消、救急搬送時間短縮や防災機能の向上が期待できること、また、周辺市街地における土地区画整理や駅前広場、道路の整備推進により市街地の一体化が図られることから、事業を継続し、効果の早期発現を目指す。

### 事業概要図

番号	2	事業名	社会資本整備総合交付金 (連続立体交差事業)	路線又は箇所名 等	東武野田線 (野田市)
----	---	-----	---------------------------	--------------	-------------

#### 平面図



#### 凡例

	連続立体交差事業
	土地区画整理事業
	都市計画道路
	駅前広場
	県道
	ボトルネック踏切

○A 159号踏切 (愛宕駅付近)



75,461台時/日 (H25)

○B 168号踏切 (野田市駅付近)

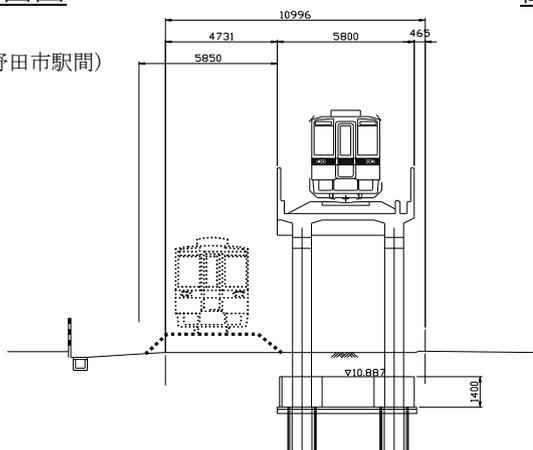


踏切交通遮断量

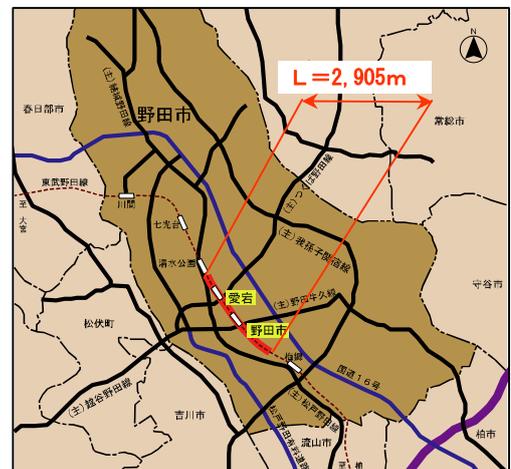
57,266台時/日 (H25)

#### 標準断面図

中間部  
(愛宕～野田市駅間)



#### 位置図



## 【別紙様式 5】

## 再々評価事業に関する調書

番 号	2	事 業 名	社会資本整備総合交付金 (連続立体交差事業)		路線又は箇所名等	東武野田線(野田市)
事業化年度	平成 19 年度	用地着手年度	平成 20 年度	工事着手年度	平成 20 年度	
【再評価の概要】						
再評価実施年度 (基準年)	平成 21 年 度	供用開 始年度	平成 29 年度	対応方針	継続	
B/C	1.2	総費用	307 億円	総便益	354 億円	
再評価時の委員会の意見 及び当時の状況 継続することが妥当である。						
再評価時の進捗状況及び再評価時想定 of 5 年後の進捗状況						
		計 画	進捗状況 (H21)	5 年後の想定進捗状況		
全体事業費		324 億円	14 億円 (4%)	255 億円 (79%)		
用地取得面積(借地)		4,930 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup> (0%)	4,930 m <sup>2</sup> (100%)		
供用面積(延長)		2,905m	0m	0m		
【再々評価の概要】						
再評価実施年度 (基準年)	H26 年度	供用開 始年度	H29 年度	対応方針	継続	
B/C	1.2	総費用	338 億円	総便益	393 億円	
現在の進捗状況						
		計 画	進捗状況 (H26 末見込み)			
全体事業費		324 億円	38 億円 (12%)			
用地取得面積(借地)		4,930 m <sup>2</sup>	4,930 m <sup>2</sup> (100%)			
供用面積(延長)		2,905m	0m			
再評価後の経過 及び 処理状況	仮線用地の借地契約を進め、今年度、全ての仮線用地を確保する予定である。 また、清水公園駅側の 0.4 km 及び野田市駅から梅郷駅側の 1.5 km については、仮線運行を開始し、清水公園駅側については、高架橋本体の下部工 工事に着手した。					